

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100417		
法人名	合資会社中藤		
事業所名	グループホーム青い鳥2		
所在地	岡山県備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・季節に応じた行事や外出(ドライブ)など計画しております。 ・利用者とスタッフがたくさんコミュニケーションをはかり落ち着いたゆっくりとした時間を過す事のできるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ケア方針「居場所と役割づくり、一つの我が家としてその人らしい暮らし」を土台に利用者本位のケア改善によりグループホーム事業所交流会、行政との協体制、職員の質向上に活かされ、利用者の安心した日々の暮らしにつながる地域密着型サービスの役割に反映されていきました。ゆっくりした1日のリズムが自然な笑顔に変わり、職員さんの電話対応にも現れていました。代表者との意見交換も積極的に開催され感染予防、整理整頓、衛生面等に努力が窺えました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「家庭の延長」・・・家庭で使用されていた物を使用し、その方の得意としている事などで「自分らしく」を發揮してしてもらえよう努めています。	基本理念を職員の出入りの多い場所で目に入りやすい処に掲示し、「家庭の延長、小さな願いを叶えたい。自分らしさ、ゆったりして過ごせる我が家としたい。」実践への取り組みでした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行う行事へ気軽に来てもらえるようチラシを配布したり、地区の敬老会への参加。秋祭りのおみこしを施設の外で見学したりしています。	子供会の廃品回収への協力また、敬老会・秋祭りのおみこし見学やクリスマス会開催時には、ちらしを配布して地域との交流に努めている。(中学生や高校生、大学生等の実習生の受け入れも実践している)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ地域にある他の施設との認知症についての交流会に参加し、情報交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、地域の方にも利用者家族の意見を聞いてもらいサービス向上に活かしています。	運営推進会議が定期的開催されている。区長、民生員さんの協力体制が出来、軌道に乗っている。家族や地域一般、福祉関係の方々に幅広く呼び掛け、現状報告、意見交換等により事業所の質向上にいかしていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に消防・公民館・教職員・警察などの方々に必ず参加してもらい情報交換しています。	運営推進会議での面識も出来、日々日常的に現状報告をはじめ相談事例に於いても協力関係が出来ているように窺えました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	問題が見つかれば迅速にスタッフ間で話し合い、管理者家族とともに問題解決できるように努めています。	利用者の安全を一番に考慮し生活状態の日誌等の記録により問題が見られると、即本人、家族、関係者、職員で問題解決へと身体拘束をしない取り組みが窺えました。(行政による職員教育に参加)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安全を一番に考え、やむを得ない状態の時はスタッフ同士話し合い玄関を施錠しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が対応しています。 今後、他スタッフも学ぶ機会を持てるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方が納得され理解されるように、十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会に出席して頂き、意見・要望などを聞き今後の介護に活かせるようにしています。	運営推進会議の他に家族の来所も多く、ケア方針等何でも話し合い意見・要望を暖かく受け入れ、運営に反映する努力がうかがえます。(例 ドライブ先の入園料が、介護者プラス本人料金、本人だけの料金の違いもある)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全スタッフでミーティングを行い意見交換しています。	職員会議が定期的開催され職員の環境作り、研修会参加等職員が意見、要望、提案しやすい現実状況です。倉庫を改造するに於いて2年間再々話し合い検討の結果現在立派な部屋が完成していました。	今後も継続され代表者職員が一丸となり各自の意見要望が等受け入れられ職場環境に反映され事業所の向上に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気になる事などがあれば、ミーティングで話し合いができる環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市のグループホームとの意見交換、勉強会を行うことでサービスの質を向上すべき努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族の方から不安な事や困っている事などを聞いて把握しておきスタッフに伝えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族や本人様との面接にて要望などを聞き取り、ケアプランを作成し家族に説明を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が安心・安全に過せるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事と一緒にとりお手伝いもしてもらうなど、全ての生活に寄り添っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度家族の方へ利用者様の生活状態などを書いたお手紙を出しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が面会に来られることもあります。その時は一緒にお茶を飲んで、ゆっくりおしゃべりを楽しんで頂いています。	ご家族、知人等の面会が多く個人の部屋や共有空間で一緒にお茶をしたり個々のアルバムを見ながら馴染みの場所や観光名所などの話で楽しい時間を過せるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフが入り、会話のキャッチボールができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院などに移られた方の面会も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様により良いケアができるようにスタッフで話し合い対応しています。	入所前、入所後において情報把握していますが、本人本音を聞きだす支援をしながら、家族の意見や希望を踏まえた支援がされました。1日の活動を観察しながらの気配りがうかがえました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人様や家族の方からの情報を得て把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に本人様との面接や家族の方より話を伺い、入所後は現状に沿ったケアプランを作成しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点に対してモニタリングを行いスタッフがより良い介護ができるように努めています。	日々の記録、家族、他方面から検討し現場職員等の意見収集に努め、問題点に対し柔軟な支援を続け、現状に即した介護計画作成に努めている。(帰宅願望のある方にはスキミングを大切にされた支援での成功例も聞く事が出来ました)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録し、スタッフ間で問題点などがすぐに話し合えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題点があれば全職員がそれを把握し家族とも話し合い、柔軟な支援サービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所まわりへの散歩をしたり、近くにあるパン屋さんでコーヒーを飲みに行くなど地域の方との交流ができるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、吉永病院の往診を受けている。家族の方がかかりつけ医へ受診につき添って行かれる事もあります。	総合病院による定期的往診により現在充実した関係作りがされている。歯科医院の訪問診療もあり、口腔ケアの研修実施等により、職員の知識、技術向上につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職・経験のあるスタッフへ相談をし、病院への連絡など適切な支援ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時はスタッフが洗濯物を交換しに行き、その際には必ずご本人の状態などを聞いてスタッフに報告しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	容態が変化するたびにスタッフと家族と話し合い今後のケアや方針などを考え共有し支援に取り組んでいます。	重度化、看取り支援について家族とケア方針等検討し職員技術向上に向け取り組んでいる。	ニーズが多くなってくると思われます。事業所全体でこれからも話し合い方針の共有と支援に取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のバイタルチェック、その後の早急な対応ができるように救急車の支援要請マニュアルを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、避難訓練を行っています。	災害対策避難訓練が実施されました。地域の協力体制も運営推進会議にて夜の災害対策も検討され、職員のタバコ禁止も実践されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな声掛けを心掛けています。	一人ひとり寄り添い自尊心を傷をつけない様職員間で注意しながら丁寧な言葉かけや対応が自然な形で実践されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者、家族の方の思いや希望の介護ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事無く、本人のペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や季節に応じた服装などのアドバイスをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の下処理やその他簡単なお手伝いをしてもらっています。	近隣からの食材提供、又地産野菜を直接購入し、職員の献立で楽しい笑顔の食事時間が窺えました。簡単な手伝いも実施されました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた量で食べやすいように刻むなど状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。夜間時には義歯の洗浄薬を使用し清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し、時間誘導などの声掛けをしています。	排泄「トイレでの排泄をめざし」自立支援に向けた声かけ誘導支援が窺えました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬でのコントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	病院が休みの日には利用者の急変が考えられるため行っていませんが、平日は毎日入浴して貰っています	毎日の入浴を目標にし希望に応じた柔軟な対応に努めている。特に体調変化に注意し衛生面や衣類の着替え等ゆき届いた介護により清潔感が強く感じられました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や寝具の清潔に心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の症状の変化の確認を行い、看護記録にも現在服用中の処方紙をとじてスタッフ全員が常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力を活かして頂く為にもその方の希望に添った支援が出来るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や体力に合わせて散歩を支援していません。季節を感じて頂けるように「いちご狩り」や「もみじ見学」「柿とり」など、皆さんが参加できるよう支援しています。	散歩を楽しむ興味が沸き起こる行程を考え、手作りパン・喫茶店と幅広く支援をされている。春夏秋冬を行事に採り入れ稚気の人々と出会う喜び、またそれらを個々のアルバムに整理され思い出の一頁として記録されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいませんが、預かり金として家族の方から預かり、本人に必要なものがあればスタッフが代理で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話を掛けたいという希望があれば、スタッフが電話を掛け、途中で本人に変わりお話をしてもらうこともあります。また、本人が書かれた絵や文字を家族の方に見てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくためにホールにあるボードにスタッフと入居様と共同し貼り絵や折り紙を制作し飾ったりしています。	共用空間は居室から出て一息できる家庭的に配慮され壁画がは来訪者を暖かくむかえている大変感動しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は1人部屋なので自由に出入りしておられます。ホールでも自由に他者やスタッフと談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や布団など持ち込まれて居心地よく過せるように工夫しています。	家庭に近い環境雰囲気作りにつとめ、個性に合わせ居心地よく過ごす工夫が家具、寝具等馴染みの持込み備品で実践されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉に貼り紙をするなど自分でもわかるようにしています。		